

# 医家随想



## 香港の蜘蛛の糸

津 谷 喜一郎

もともと計画を立てて準備出来ない傾向が、五十年代後半から悪化した。海外出張の前は、机の上に重なる書類を片付けるのに徹夜となってしまう。頭の片隅で、このほうが飛行機の中でぐっすり眠れると言いつけていた。

W H O の会議は香港のWホテルで開催されるという。香港は2年ぶりだが、これまであまり聞いたことのないホテルだ。送られてきた案内にしがたがって九龍駅で下りると、フラットホームの壁に "In the Name of Love: The Films of Evan

Yang" (兒女情長・身文電影と題したポスター) が貼ってある。中国系の美男美女

が見つめ合っている白黒の映画の二コマがデザインされている。思わず「いいな」とつぶやき立ち止まってしまった。Web address をメモする。まだ午後四時前だ。あとで確認して時間があれば見に行こう。

このホテルは駅の上に建つ建物の中だ。二十階の部屋に通される。早速 Hong Kong Film Archive (香港電影資料館) の web で探すと最終上映は五時からだ。住所を探すと九龍サイドの Tsim Sha Tsui の文化センターとある。しめた。念のためホテルに行き方を問い合わせると十分以上たってから返事があり、地下鉄で四十分以上かかり香港島に

あるとの由。おかしい。もっと近いはずだ。よく聞いてみると私が web でみつけたのは Hong Kong Film Archive の管理事務所だった。そうこうしているうちに時間がかかってしまい間に合わない時刻になってしまった。体も疲れている。今回は断念しよう。

東京で片付かなかったメールへの返事を終わり、ひと泳ぎするかと問い合わせると、七六階にプールがあるという。七六階というのはにわかには信じられないところが、エレベータで行くと本当に七六階の屋外プールだ。わたしが経験した人工構造物の中では一番高所にあるプールだ。空が広く青い。だいぶ夕方近いがまだ暖たかい。プールの水面がプールの周りの高さと同ほ同じで泳ぎながら周りがよく見える。

この建物の香港島側にさらに高い工事の建物がすぐ近くにあり香港島の景観をさえぎっている。プールの係員に聞くところによると一八階だという。数えて

みると百階あたりまでは出来ているよつだ。Wホテルの入った建物は、四のつく縁起の悪い回数フロアーがないために実際にはプールは七六階よりもいくらか低いとも教えてくれた。

ひと泳ぎしてから、デッキチェアに横たわると、すぐに眠ってしまった。機内ではよく眠れなかった。

肌寒くなりふと目を覚ました。なんと天から蜘蛛の糸が垂れている。ついに過労死で極楽に来たか。いや、地獄か。糸の上端は、夕日に照らされた雲に隠れている。「蜘蛛の糸」は実在するのだ。すると芥川龍之介もこのようなものを見たのだ。それともまだ夢を見ているのか。

蜘蛛の糸の下端に人工物がついていて次第に下降してくる。なんだろう。メガネをかけてしばらく糸の上端と下端を交互に見ていると、雲が風で少し晴れて糸の上端が次第に見えてきた。なんとクレインからつるされた工事用のロープなのだ。クレインが工事中の百階の屋上の端

から外へ長く伸びており、その先端が雲に隠れていたのだ。

三日間の会議はジュネーブの本部が担



当したもののだが、計画が練れておらず不十分なものであった。ただ香港政府所有の豪華船で、会議の参加者全員を招待したクルーズはすばらしかった。ノンアル

コルなのが惜しかった。

クルーズの後、九龍の文化センターを一人で訪ねた。地下鉄でみたのと同じポスターが貼つてあり、インフォメーションセンターであれを譲つてくれないかと聞いたが在庫がない。しかしよいものがあると香港電影資料館発行の、年に何回か出ている「展影」という映画紹介の雑誌をくれた。第四六号の表紙(写真⑤)はポスターと同じだ。

第四七号(写真⑥)は日本の川喜多夫人が海外に紹介した映画の特集だ。この号の後半には、冷戦時の映画特集で、マローン・ブランド主演の「On the Water-front」(波止場一九五四)が組合活動を描いているといふことで当時香港を支配していた英国の植民地政府が上演禁止、中国の「紅色娘子軍」(一九六二)が革命賛歌で上映禁止であったのが香港人の抗議運動で一九六五年に解禁、台湾の国民党政府が香港の監督 Eyan Yang(易文)を招いて台湾の風光や軍の活動を撮

らせた「空中小姐」(Air Hostess 一九五九などの解説があり、まことに興味深い。ペニシユラホテルのタバコの煙でやや頭痛を感じるようなバーであっても思わず読み耽ってしまつた。

## 恩と報恩に懐いを馳せる

秋元 光博

人間は自己の意思によらず、この社会に生まれてきます。従つて人間は生まれながらに社会の一員であります。そして自己の意思に反して死んで行きます。嘗て両親、兄弟は言つに及ばず、ます産婆さんのお世話になる。そして幼稚園、小学校、中学校、高校、大学と先生達のお世話になり実社会に出て行きます。

食物にしても大根一本、人参一本でも農家の方々の丹精の結果であります。魚の場合も同様であります。魚をとつてくれる人があるから、我々は魚を頂戴できる。人間一人では生きて行けないといつ

ことを申し上げたいのです。小生の幼少頃の食事の内容は、今では想像もできないような質素なものでした。朝は沢庵だけのこともあり、昼は沢庵と味噌汁と一菜、夕はそれに一菜がよけいにつく程度です。その沢庵も味噌も、みんな作つた自家製です。一粒のご飯を残しても祖父に叱られました。炎天下に蛭に血を吸われながら、お百姓さんが米を作つて下さるのだ。それに対する感謝の気持ちを持たねばいけない。ありがたいという気持ちがあれば、一人前の人間になれないといつのだ。

水道の蛇口からポトポト落ちる水滴もいけない。しつかり締めると叱られました。水を上へあげるのには電力がいる。そつという教育を受けてきました。今でも列車弁当を買つと、ます蓋をあけて蓋についているご飯から食べ、それが済んでから中へ箸を入れる。その習慣は同じであります。

私が申し上げたいのは、人間は生まれ

ながらにして、誰かの世話にならなければ生きて行けない。そこに必然的に感謝が生まれ反省がある。受けた恩に対する報恩、それが奉仕ではないでしょうか。わが日本は近來、あまりにも物質的に繁栄しました。それに反して精神的貧困が目立ちます。

日本人は優秀です。しかし何か欠けたものがありはしないか。奉仕とは報恩であると思つ。これを大切にしたいものです。神は決して拜まれてうれしいのはなからう。あくまで真理を悟り、これを守るほどの人間が育つことを喜ばれるのではあるまいか。

どんなに暗い夜があつても必ず明るい朝がやってきます。きびしい寒さの冬でも暖かくほほえむ春が参ります。道に行き暮れて行き悩む時でも、太陽は陽のあたる方向に向かつて歩けと光を投げかけてくれます。

長雨のつづく真夏も薄ら日に

日ごと赤みを増してゆくトマト

# サイパン島旅行記

美濃部 欣平

ゴールデン・ウィークの最初の部分を JTB の企画で、ノースウエスト航空を利用して、三泊四日のサイパン観光に旅立った。

サイパンは、日本からはアメリカの中では最も近い。観光客は日本人が一番多いと思われる。島の住民はフィリピン人が最も多く、続いて中国人、チャロモ人の順に多い。

太平洋戦争中、アメリカ軍はアッツ島を玉碎させ、その次は一年後の一九四四年七月六日、サイパンに上陸した。日本軍司令部は全員自決し、翌七日、約3000名の日本軍は最後の「万歳突撃」をして玉碎した。九日、北部のマツヒ岬（バンザイクリフ）に避難してきた多数の民間人が崖から投身自決した。捕虜となり生還できたもの2438名と言われている。

る。  
日本爆撃のため飛び立ったB29の飛行場のあるテニアン島が、遠方に微かに展望できた。

島の丁度中央にあるサントルーデスと



捕虜になるのを恐れて大勢の婦女子らが投身自決した

いう小さな洞窟には、サンタマリア像の前にある祭壇の近くに水が湧き出ている井戸があり、そこが日本軍の野戦病院の

跡であった。その洞窟の中に、シェパード犬が守るように、覗き見るものの顔を不審そうに見ていた。

サイパン島の北の果ての切り立った崖の上に、多くの戦死者や病没者を慰霊する石碑や観音像が建てられ、そこが平和公園となっている。あの無益な戦争で亡くなった人々の家族や縁者の方々が、安



バンザイクリフに建てられたサイパン平和観音像

らかな眠りを求めて建てたものにはがない。

サイパン島の南端には、北マリアナ諸島のカトリック教会を総括する大聖堂があり、中にはやはりマリア像が安置されていた。現在のサイパン島に暮らす住民の約95%が、カトリック教徒であり、その縁者には戦争に巻き込まれなくなった方が多かったことと思い、今でも祈る姿に、戦争の無残さを思い重なる。



⑤ 旧日本軍の野戦病院跡 ⑥ 慰霊碑に刻まれた追悼文

- ④ 旧日本軍司令部の洞窟がある
- ④ 近くに大砲があり火炎樹の赤い花が覆つ
- ⑦ 裏側には慰霊碑群



バンザイクリフ（現在はバンタン・サバスタ）に建された戦争犠牲者の慰霊碑（人物は筆者）

# わが振りの源

大黒 勇

わが父は星一つから陸軍歩兵中尉まで長期を要して敲き上げて行つた生粋の軍人だったので、退役して民間人になつても堅い人物であつた。母の遠祖は徳川家康の家來で、戦陣に功ある人だつたが運が悪くて、子孫は下級武士だつた。然し武士は武士だつたから、母の父は同様に堅物だつた。さればわが両親は食事中に必要以外の事は話さなかつた。けれども今にして思出せば、稀には滑稽な事を聞いた覚えがある。

路面電車の走つて居た頃、乗降に危険の無い様に、停留場毎に安全地帯が設けられてあり、所によつては横書きにしてあるのを、父は帯地全く安いと讀めると言つて笑つた。父の死後最も親しかった友人が、大黒さんは時々面白い事を話す人だつたと僕に告げた。真面目の中にも遊び心が潜んで居たらしい。

母からは接觸時間が長かつただけに、種々の言葉遊びを聞いた。母も遊び心が潜んでいた様である。淺草時代（小學校五年生まで）に聞いて最も印象に残つたのは、次の如き國名遊びである。出典は今も不明。

加賀（石川縣南部）蚊が

能登（石川 北部）咽喉

周防（山口 東部）吸はつと

駿河（静岡 中央）するが

美濃（岐阜 南部）身の

尾張（愛知 西部）終り

淺草は下町だから、子供も上品下品の區別は知らず、面白ければ何でも囃し立てた。順不同に並べると、「火事はどこだ牛込だ、牛のきんたま丸焼けた」「みつちゃんみちくうんこたれて、紙がないから手でふいた」「かつちゃん數の子にしんの子、おけつをねらつて河童の子」「七五調だから囃し易かつた。

少し大きくなつて恐らく瀧野川時代から母より聞いたのは、つまかつた牛負

けたを少し高尚にして、お石勝つた、戸無瀬が負けたであり、出典は概略知らされたが、正確に知つたのは勿論後の事である。即ち假名手本忠臣藏で、お石は大星由良之助の妻、戸無瀬は加古川本藏の妻である故、お石には敵の妻になるのである。歌舞伎の話のついでに淺草時代に戻り、子供らは「もうし勝つあん勝五郎さん、櫻の根つこに糞があると囃し立てた。箱根靈境覺仇討の詳細は知らぬが、いざり勝五郎の名は知つて居たのである。

中学一年生時代、算術の教師で般若の仇名通りの顔であつたが、一度も生徒を叱りつけた事はなく、時々面白い事を言つた。殊に洒落はよく飛ばした。今でも記憶に残るのは、敵もさる者引つかく者師岡姓の生徒に指名する時には「一つやつてもろおつか。或級會の餘興には箱を持って来てねかせ、箱根の山は天下の險それを立て、一飛びに函館へ。中学時代の小生自身に關する面白い話もあるが、茲で一応擲筆する。

# 呆け防止に 日記を

書こう！

上田正昭

(一)

マイ日記二〇〇九年 元旦(木) 快晴  
ゆっくり目を覚ます。いかにも元旦の  
朝らしく 陽光が燦々とそそぎ、空は抜  
けるように青く澄み、実に心地よい。思  
い切って背伸びする。

少子高齢化、更にアメリカ発・世界恐  
慌が影響してか、道路に車どころか人影  
もみえず、街並みは不気味なくらい静か。  
ちよつと前まで我が家に隣接してマン  
ションが建っていたが、持ち主、先のサ  
ブプライムローン事件直前、グッド・タ  
イミングで売り抜け、現在広い空地のま  
ま、不景気を象徴する様に、ぽつんと不  
動産屋の売地の看板が一本立つ。

周辺の家々を見渡すと、殆どの家庭か  
ら松飾りが消え、何とも正月らしい風情  
が薄れ、寂しい。

自慢でもないが、ちゃんと我が家は松  
飾りを賑々しく、神々の降誕を仰いでい  
る。

実は我が家、氏神の秋の例大祭に際し  
ては神輿のお宿を承っていて、つまり担  
ぎ手を酒肴で接待し、子供神輿、大鼓の  
引き子達へは菓子配る。地域とのコミ  
ュニケートでもあり、まあ神々とも親し  
い間柄という次第。

どつやら元旦の朝の静けさの原因は、  
屋外でなく屋内にあったよ。核家族、  
子供達は独立、テーブルを囲むのは古女  
房と二人きり。氏神への初詣を端折った  
もので、神棚へ灯明を上げ、揃って礼拝  
最早欲はないものの、平和を祈る。幸せ  
の根源だから。

食卓へ付くと、いきなり女房、紋切り  
型に新年の挨拶、私も「本年もよろしく」  
と返し、屠蘇を祝う。歳暮で頂戴した生  
酒の利き酒が過ぎ、ほろ酔い、朝酒は利  
く。

眠るのが勿体無い。コップ酒片手に日

溜りですつと。

年寄りの証拠で、やたらと昔、幼児期  
の話になるだろうか。どこの家でも大な  
り小なり門松を立て、年が明けると門、  
玄関の戸を開け放ち、衝立の前に名刺受  
けを置き、年始回りの客は入れ替わり立  
ち替わり顔を出し、挨拶もそこそこに立  
ち去る姿が面白く、覗き見てた鮮明な記  
憶がある。虚礼廃止が、こんな風習も消  
えた。

日中戦争の直前で日本は貧困、不景気  
だったのだらう。「もう幾つ寝るとお正  
月」子供達は指折り数えて元日を待って  
いた。朝はつと眼が覚めると、枕元に新  
品、但し木綿の紺の着物、下着までが重  
ねて積まれ、足袋、下駄に奴隷まで添え  
られ、将に母親の心尽くしたつらさが、  
ともかく嬉しく、寢床の周りを飛び跳ね  
たものだ。物の有り余る時代、こんな感  
激を瞬間でも今の人は味わうことはな  
いに違いない。果たして幸か不幸だった

るつが。

父親は妙なところに頑なで、元日の朝は井戸から若水を汲み、神棚へ供え、家族揃って庭に出て四方拝、それぞれ一礼二拍手。隣家の女の子が垣根越しに覗いていて、何んとなく気恥すかしく、急いで家の中に隠れたものだ。

正月早々明るい話がなく残念。当時の日本は軍部が台頭、軍国主義の道を辿り、天皇を現人神と神格化し、国家神道を推進、太平洋戦争へエスカレート、神風特攻隊の犠牲も虚しく、敗戦、先のバラク・オバマをアメリカ大統領へ押し上げた言葉『チェンジ』。日本人は終戦を契機に過去を忘れた。無論親父も。

再び戻って、子供の目に映った当時の世相を更に語ってみよう。小学生時代、祝祭日でも式典に参列のため登校、国旗掲揚、国歌斉唱、時に校長の教育勅語奉読、訓示、まだモーニングに白い手袋、間もなく衣服がカーキー色に変色する。

校門に入った正面玄関に神棚が祀られ、

毎月初の朝、各学年クラス毎参拝。そんな或る日のこと、礼拝時に担任の訓導からお喋りをしたと指摘され、「僕は話していない」と抗議したら、「こっ酷く叱られ、帰校時まで廊下に立たされ、子供心に悔しい思いをさせられる。」

政府の神道政策には後日談。旧制中学に入学したら更にエスカレートして、通学路にある神社はもとより、明治神宮に対しては参道へ礼拝、配属将校の監視下にあった。昭和二十年アメリカ空軍による東京大空襲で校舎は灰燼に帰す。ちなみに五年生は一年間、府中の工場で勤労動員、お陰で死の危機なく過す。

戦時中軍部が神道を強引に推進、結果敗戦、その反動があつて、戦後の日本人は無宗教になつたのではないだろうか。何故か走馬灯のように、止め処も無くあたかも昨日のこの様に昔日が偲ばれる。

昨年十二月発刊「医家芸術・文芸特集号」に拙文『BC級戦犯死刑囚 河村参

郎』を掲載した理由は、彼は昭和二十一年、広島島の自宅でMPに捕縛された時点で死刑を覚悟され、極悪なシンガポール・チャンギー監獄で独房生活を余儀無くされたにもかかわらず、禅僧のように不満、屈託なく、平然と絞首台へ登る日待つ境地、その勇氣とどこから出たのだらうか、私の中で不思議と感銘が錯綜してた。

奇跡的に日本へもたらされた河村日記に、「ごく平凡な行為、日記を付ける、これで死、孤独からの恐怖を回避できた」とのサジェスチョンが記されていた。

では再度昭和二十二年四月二十六日（土）の河村獄中日記を繙いてみよう。

『今日から「思い出の記」を書いてみることにする。何かの本にあつたが、エプマンはその書の自然論で、「たとへ誰一人私と共にあるものはなくとも、読み書きをして居れば、私は孤独ではない」と述べたと云つが、実際その通りである。』

現在のやうに死を待つ身にも、良書は最



後まで憂鬱を紛らわしくしてくれ。過去の思い出を筆にするのも、幾多の知人知己と再び相会して語るやうな感じを与へ、孤独単調を救ってくれる。「思い出の記」も畢竟、現在の生活に、追憶の快感を蘇がへらせて貰う手段である。内容はどつあつとも、兎も角筆を進めよう。

昨年は大変な年で、暮は三人の大学時代の親友の訃報に接し、すっかり忘れていた学生時代の部活の様子などを思い出され、急に懐かしさが込み上げてきた。住む世界が小さくなった様な気分を味わう。冥福を祈った。

兎に角先人に背ろつと日記帳を捜す。聞くところによると二千種以上あるという。興味も湧く。最寄りの自由が丘駅前の不二屋書店、三省堂、青山ブックセンター、自由が丘など覗くも、さして珍しい日記はなく、三年・五年日記、せめても育児ぐらいい、ペット日記もなかった。足を伸ばし渋谷・東急デパートの銀座・伊

東屋でも同様、已む無く厚手のノートを購入。

歳を取ると、体の故障、体力の衰退、そして親しい人達が去り逝く。孤独を日記に綴る必要がある。

坐禅、念仏同様、日記付けも集中力が極め手となるのだ。

いささか我田引水の嫌になり恐縮ですが、今年の元日から日記記述を決意し、日頃めつたに夢を見ない親父のことを想起「親孝行したい時には、親はなし」とか、あたかもコミュニケーションした風で、罪滅ぼしをした心地を覚つ。

いかに日記とはいえセンテンスに纏め文字、言語も忘れていたら辞典を引く記憶を辿ること、脳の訓練、刺激が呆け防止になる。

日記、されど掛け替えのない貴重な個人史の一頁なことに間違いはない。

日記は自分自身の生きている証し、過去ではなく、現在進行形。

もつと諸々の効能、意識を発見できる

に違いないし、必ずそうあるだろう。殊に高齢者諸君に勧めたいし、「継続は力なり」といわれる。

## (二)

「手帳はメモ」だが、「日記は付けるでなく、書き綴るべきだ」。

今迄は何度か日記帳を購入したが、全て三日坊主に終わっている。敢えて今年からは「一年の計は元旦」と、敢えて自身へ課題として拘束を課したつもりだが、果して。

ともかく左右の大脳皮質と前頭葉とのトライアングルを活発に活動、刺戟すれば、いかにばかりか惚け防止に役立つのではと、書くことに期待を寄せているつもり。

最近直前診察した患者の名前を、ひとつと忘れたり、「物忘れ外来」。大きな声で言えないが、気にしている次第がある。

三月二十九日(日) 快晴

いよいよ桜が開花した。あちこちの地域情報をテレビが伝える。

気温が上昇しているし、ぼやぼや家中で燻っているなんて、何とももったいない。

「老化は脚から」とか、努めて日頃から散歩をするよつ心掛け、主に我が家から駒沢公園を一周して帰る行程を定め、私としては懸命に努力しているつもり。

いるいる。この日気の早い男女の若者達、公園の三分から五分咲きの桜の植え込みの下へビニール・シートを敷き、昼間からドンチャン花見酒、羨ましいが、横に見ながら去る。

ちよつと未だ風が肌寒い、公園の女性用トイレに長い列が続いているのも、愛嬌

温暖化現象で桜の開花日が毎年少しずつ早くなっている。幸い今年の春の天気予報だと風は来そうになく、しばらく爛漫の花が楽しめるので、わくわくする。

大和民族と桜花 人間のDNA全て解

明されたといわれ、もはや日本人特有な桜に触発される遣伝子があつて、だから老若男女、貴賤を問わず誰しも、咲くもよく、散るもよよしと、理屈抜きに心が浮き浮きするのだらう。

四月四日(土) 快晴

澄み切った青空をバックに、薄いピンク色に映える満開の桜の花、毎年だが嬉しい。果して花見日和といった熟語があるかどうか。ともかく小春日和の陽気に誘われ、咲き誇る桜花を褒めそやすに、やはり相槌を打つ相方がいなければ、何か面白くない。

残念ながら年寄りの私の散歩に付き従うは、古女房だけ「ゆくぞー」と大声を掛ける。

世田谷も深沢方面から、地名に桜、桜町、桜新町と桜に因んだ地域が多く、それこそ街路を花が覆い被る。その一連の流れが呑み川沿いで、現在は暗渠が遊歩道、長い長い公園で、どこまでも桜並木が続く。ここにも元気のいい若者達 中

にはテーブル、椅子までセットし、酒盛り。未だ空は冬の気配を残している。花見は江戸の昔から庶民の楽しみ、子供達も飛び跳ねる。私も久し振りに長い時間の散策を楽しむ。

帰り道、ふと気が付くと知人毛前の通り、

突然だったか立ち寄りコーヒートを馳走になる。やはり疲れていたのか、格別な味。

「好きこそ物の上手なれ」一級建築士の亭主、会社を定年退職後、趣味が高じてジャズバンドに入り、現在女房がボーカリスト、結構あちこちで演奏していると。話題も豊富で面白い。夫妻の第二の人生に乾杯。

アメリカ発金融恐慌、リーマン・ショック、ダイレクトに日本へ影を落とし、世の中がギスギス、そして「春つらら」なんて悠長な言葉は、日用会話から消えてしまった。

四月十四日(火) 曇・夜雨

ちよつと桜花の話題に因み、日記帳を繰り、この日の毎日新聞朝刊「くらしナ

「」欄の切り抜き、敢えて原文のまま記述してみる。

『Dr 中川の癌から死生をみつめる』

『命の限りある理由』

「散る桜 残る桜も 散る桜」。良寛の辞世の句と言われています。「おまえとおれとは同期の桜」ではありませんが、同じ時期に咲き誇り、いつせいに散る桜の姿に日本人は生と死を見つめてきました。

しかし、その姿は日本の桜の八割をしめる「ソメイヨシノ」のもです。ソメイヨシノは江戸時代末期に、野生種であるオオシマザクラとエドヒガンを交配して作られました。人工的に作られた雑種で、種ができないため、自力で繁殖することはできません。人間が挿し木などで増やす以外に、この桜が地球上に生き残る方法はないのです。日本中のソメイヨシノは、江戸の染井村で人工交配によって作り出された桜そのものと言え、完全に同じ遺伝子を持っていますから、同じ

ような環境のもとでは、開花も散り際も見事に「同期」になるといっわけです。

そして、人間が枝を手折って土に埋め直さなければ、百年もすると地上から姿を消す運命にあるのです。

ソメイヨシノのような、まったく同じ遺伝子をもった生物や細胞のことを「クローン」と呼びます。植物の世界では、挿し木や株分けなどによるクローンはめずらしくありません。たとえば、竹は地下茎でつながっているため、竹林全体が一つのクローンとも言えるのです。

しかし、私たち哺乳動物の場合には、父親と母親の遺伝子を混ぜ合わせる以外には子孫を残すことができません。そして、この過程で子どもは遺伝子は世界でただ一つのものになります。

「有性生殖」こそが、私たちが「かけがえない自分」である理由であり、そして、これからお話ししていく「私たちの命に限りがある原因」とも言えます。

逆に、挿し木などの「無性生殖」を繰

り返す場合、「死」はありません。バクテリアは無性生殖の一つである「細胞分裂」によって増え、環境さえよければ無限に増殖します。バクテリアには「性」も「自他」も「死」もないのです。そして、がんは、太古のバクテリアからの「不死」という性質を受けつぎ、「先祖返り」した細胞とも言えるのではないのでしょうか。（中川恵一・東京大付属病院 准教授、緩和ケア診療部長）

そう、我が家にも染井吉野、三本植えてある。大木になり、真系四〇輝の幹の樹皮はゴツゴツし、癌が形成され、樹高は十米を越す。

「エゴ」思想普及以前、子供が公立小学校へ入学した折、入学祝いにと、区から頂戴した桜で、すでに四十数年経ち、老木の観を呈す。

未だ優雅に沢山の花を付ける。そこでライト・アップし、三階のペランダにテーブルを並べ、花弁を手で触れながらの花見酒に酔い痴れる。

今更ながら江戸の植木職人の技術レベルの高さに驚かされるが、確かにソメイヨシノの花が散っても、結実、桜桃は生成されない徒花。春の宵も侘しく暮れる。

五月十二日(火) 曇

当日の毎日新聞「くらしナビ」欄、先の中川恵一、東大准教授の記事。

『Dr 中川の癡から死生をみつめる6』

『細胞に「若返り」機能』

『私たちのからだの細胞は無限に分裂できないため、「不老不死」はありません。細胞の分裂できる回数は、生物の種類によって決まっています。分裂できなくなることは「死」を意味します。つまり、回数券を持って生まれてくるようなものです。人間の場合、52回くらいと言われています。回数券の枚数が多い動物ほど長生きします。』

なぜ、細胞分裂の回数に限界があるのでしょうか。細胞分裂ではDNAをコピーして二つの細胞に振り分けられます。私たちのDNAは、2メートルもある「ひ

も」のような線状の物質です。このDNAがコピーされるたび、DNAの両端が短くなります。実際、私たちのDNAの末端の長さは、年齢とともに短くなり、これ以上短くできない長さになる。DNAのコピーができなくなり、細胞分裂にピリオドが打たれるのです。

1996年、スコットランドの研究所で生まれた子羊ドリーが、世界に衝撃を与えました。ドリーは6歳の雌羊の乳房の細胞から「造られた」からです。世界で初めて、哺乳類の体細胞から作られたクローン動物で、クローン人間が生まれる可能性を示していました。

しかし、その後の研究によって、ドリーのDNAの「供給元」の羊が6歳だったため、ドリーのDNAも6年分短くなっていたのです。ドリーが生まれたとき、その細胞は0歳ではなく、すでに「6歳」になっていたというわけです。

では、がん細胞は、なぜ「不老不死」なのでしょいか。がん細胞のDNAも分

裂とともに短くなり、いつかはぶんれつできなくなるのではないのでしょうか。実は、がん細胞でも、細胞分裂のときにDNAをコピーするたびに、DNAの端が短くなっています。ところが、がん細胞には、これを元の長さに戻す仕組みがあるのです。つまり、がん細胞には、これを元の長さに戻す仕組みがあります。つまり、がん細胞は「細胞の若返り」をしながら、無限に分裂しているというわけです。

そして、「この、老化と若返り」こそが、「性」と「死」の本質とも言えます。この本質については、次回ご説明します。『性』と死、最も関心のある問題、先生の次回の解説を期待しましょう。

華やいた桜花の饗宴から、変転して癌細胞の実体へ、何となく水を差す状況になった感ですが、現在なお厳しい癌治療の実情があり、死因の筆頭に違いない。

「散る桜 残る桜も 散る桜」

## 三人の医者 の 寓話

渡 辺 玲 子

去る五月の中頃、広島で「声の劇場」という公演があった。

それは放送劇ではないし、朗読会でもない。演劇の一種ではあるが、アクションは抑えられ、抽象化された「声とことばのパフォーマンス」と言えよう。

私がこれに興味を持ったのは、ある知人が出演すること、もう一つは、出し物が宮沢賢治の「北守將軍と三人兄弟の医者」という、意識のどこかで蠢いているような作品だったからである。

もともと賢治の作品は、生前に認められることは少なかったが、これは『児童文学』創刊号（昭和六年七月）に載っていた。一心、素筋を述べておきたい。

ラウトという町に兄弟三人の医者があった。長男が人間の医者リンパー、次男は

獣医リンパー、下の弟は植物の医者リン

パーだ。三人は、町の一番南に当たる、

黄色い崖のつばなに、青い瓦の病院を

三つ並べて建てて診療していた。彼らは

それぞれに名医で忙しいが、別に位もな

いし、報われている様子もない。ところ

がある日、不思議なことが起こった。

砂漠地帯で戦い、くたびれた軍勢を連

れて帰って来た北守將軍リンパーは、

七十才になっていた。三十年もの長い間、

馬に乗りっぱなしだったので、お尻と鞍

がひつついて離れないし、王から迎えの

使者が来た時、下馬できなかつた。カビ

みたいな植物が繁殖して、頭も少々やら

れているようだ。

この病原寄生体のことを、さるおがせ

と書いた本もある。深山の針葉樹に着生

し、糸状で長く垂れ下がる地衣植物だが、

三人は協力して彼を治すのである。

この話を登場人物十人が、それぞれ笛

と打楽器を持って、ドンジャッチャ・ピ

ヒヨロロ・ブンジャッチャ……と、音を

立てるのである。

なんとも不思議なことに、この僅かな

メロディーと単調なリズムは、二名の地

読みによる進行につれ、劇的效果を出し、

まさに賢治のファンタジーの世界を展開

して見せたのだ。

あの音調は、童謡の世界では珍しくな

いものかもしれない。だが私は、どこか

別のところ、意外な場所で会ったことが

あるような気がしてならなかつた。

それで、帰ってから調べると、『宮沢賢

治全集 第七巻（筑摩書房）に「三人兄

弟の医者」と北守將軍」という、逆にした

ような題の長編詩が出ていて、リズム感

もある。こちらが先行作品だが、帰還し

た將軍が歓呼の最中に馬を泳がせるところで

終りだ。詩とすればやや冗長だし、

人名から来る語感もあまりよくない。

ついでに言えば、北守將軍と三人兄弟

の医者』は第十巻に載っており、帰還後

は將軍がお暇を願ひ、代わりに五人の名

を挙げるよつ命じられると、大将四名を推薦するとともに、三兄弟を国の医師としてもちよつ願ひ出るのだ。

最後は將軍の姿が見えなくなったので仙人になったのだらうと噂されたが、長男の医者には、「雲だけを食べつはすがない。林の中に骨があるにちがいない」と言うのである。

このあたり、科学者としての賢治が顔を覗かせているようだが、童話としてはいささか不似合いな幕切れだ。童話として読むほうがよいのかも知れないが、も

こころは・ひまわり

たかの  
高野 征夫

開業して21年になります。仕事ばかりに明け暮れて、気がつけば63歳。これからは今までやり残してきた音楽や美術に精を出したいと思っております。皆様よろしく御指導を。

( 外科 )

う少し調べてみよう。

「北守將軍と三人兄弟の医者」の初出は、先述のよつに『児童文学』創刊号であり、そのまえに韻文の「三人兄弟の医者」と北守將軍があつたわけだが、じつをいうと最初の作品として書いたのは、散文体の「三人兄弟の医者」と北守將軍で、十年に及ぶ改稿の後、現在のようないリズムある散文体になつたのだ。

天才・宮沢賢治にしてこれだけの推敲をしているのだが、初期の原稿が出来た大正十一年頃、花巻公立病院、稗貫農学校、稗貫郡役所は並んでいた。建物は崖の突っばなの一番高いところにあつて、賢治の生家はその麓である。そして賢治自身、この農学校で一年四ヶ月、草や木の医者として人材を育てたのだ。また北守將軍のモデルと思える、北松齋という人物が花巻には実在していたのだが、その魅力が物語に陰影を与え、パフォーマン스에適したものにしたのかも知れない。

じつさい、東京の「オペラシアター」にやく座はオペラ化して、CD販売もしているようだし、ものがたり文化の会では、子供たちが身体とことばで奏する人体交響劇を仕上げたという。

さて、最後に考えてみたいのは、三人の医者 of 扱われ方である。

初出誌の筋書きでは、お暇を願ひ出た北守將軍が、三兄弟を国の医師としてももちよつ願ひつところがある。

作品の発表された昭和六年といえ、賢治の死の二年前であり、満州事変の始まつた年だが、このところ人間のお医者さんは、いじめられつ子みたいになつて、しばしばパッシングに遭っている。

赤紙一枚で軍医にされたのではたまらないが、国土として認めよ、というのなら文句はない。

いずれにせよ、賢治作品を劇化したこの「声の劇場」は、出演者の熱演もあつて、楽しみながら考えさせられる時間・

空間であった。

さて、枯れかけた樹木を蘇らせたお医者さんは、しばしば新聞で顕彰される。獣医さんの収入も悪くはなさそうだと、ところが人間のお医者さんはこのところだ……。

## 認知症の原因

豊 泉 清

新型インフルエンザの話題が連日のようにマスメディアで大々的に報じられ、認知症の存在が忘れられたかのよつな印象を受ける。そこで認知症の話題を取り上げて、なぜ年齢と共に大脳機能が低下するのかという問題を自己流の観点から論じてみたい。

一 落下傘と飛行機は、どちらが先にこの世に出現したかというクイズを見たこ

とがある。落下傘は人が飛行機から地上に降下する道具だから、まず複数の兵士を乗せて飛べる軍用飛行機が実用化し、作戦上の必要から落下傘を発明したと考えるのが常識的な思考過程である。つまり常識的に「飛行機が先」と答えたくない。

後から正解欄の解説を読んだら「落下傘が先」と書いてあった。飛行機が発明される百年以上も前に、フランス人の冒険野郎が自分で工夫した落下傘を利用して世界で初めて「気球」から地上に飛び降りたという記録があるそうである。

私はこのクイズを見て、常識的推論に基づいて万人が「飛行機が先」と答えると思われる質問ではクイズの意義がない。出題者には解答者を欺く何か裏の意図があるに違いない。そこで真の理由は分からないが、常識的思考を逆手に取って「落下傘が先」と答えれば正解かも知れない……と推理してみた。正解欄を読んだら果たしてその通りだった。

常識は大事だと子供の頃から叩き込まれてきたが、世の中には反常識思考の方がまとまな場合も多々ある。「あの人は常識が豊かだ」と言えば最高の賛辞だが、常識思考しかできない脳は退化の一端を辿る。つまり常識とは大脳の思考停止状態なりと断言できる。

二 父親と息子が日曜日ドライブを楽しんだが、運悪く交通事故に巻き込まれ、父親は即死し、息子は重傷を負った。重症の息子は救急車で病院に運ばれた。待機していた外科の当直医は運び込まれた少年を「目見るなり」「私の息子だ」と叫んだ。一人の息子に二人の父親という怪談じみた話が現実にはあり得るだろうか。

「日曜日の救急病院の外科の当直医」という言葉から、誰でも反射的に「男性」と決め込みがちである。頭から「男性」と決めつけてしまうと、一人の少年を見て「私の息子だ」と叫ぶ人は、この世の中にその少年の両親しかいない。父親がいなければ、残りは母親だけ……という

極めて単純な論理思考も不可能になってしまう。

実は日曜日、の救急病院の外科の当直医は、重症の少年の母親だった。「私の息子だ」と叫ぶのも当然である。常識的な判断と同様に先入観や思い込みも思考停止と表現して良い。やはり大脳機能の退化に繋がる現象である。

三・五十人の学生が教室の中で一斉に試験を受けた。試験官が答案用紙を見たら、全く同じ解答が三枚あった。その理由は何だろうか。

試験とカンニングは表裏一体の関係にある。二人の学生がカンニングしたと考える人が多いと思われる。出来の良い学生がさつさと解答を記入した答案用紙を左右に座っている学生が横目でちらりと見ながらそつくり書き写せば、全く同じ答案が三枚できあがる。

実は模範解答で満点の学生が三人という場合もあり、何も書いてない白紙の答案が三枚という場合もあり得る。理論的

に起こり得る可能性を徹底的に列挙してみる習慣が大事である。頭からカンニングが二人……と決めつけてしまつと、それ以外にも起こり得る条件があるか否かと考える行為を放棄したことになる。やはり思考停止状態である。

四・千円持つて買い物に行き、六百五十円の品物を買つたら、お釣りを五十円くれた。会計の計算機が壊れていたのだから。実は五百円玉を一個と、百円玉を五個持つて買い物に行き、会計で七百円出しただけの話である。「千円持つて」と言つと、つい千円札一枚だけと決め込みがちである。足して千円になるコインの組み合わせは何通りもある。

全く同じ品物を一個買つと七十円、二個買つと四十円である。一体どんなサーピスだろうか。実は一個三十円の品物を百円出して買つたときのお釣りである。個数と金額の話題から、反射的に品物の値段と決め込み、お釣りの存在を忘れがちである。先にお釣りのクイズを解いて

頭慣らしをしておいたから、後から登場した類似のクイズも楽に解ける。大脳機能の活性化に関しては、反復練習による慣れの現象が重要であると常日頃感じている。

五・松、杉、桜、梅、桃、相、東の七文字の漢字の中で仲間外れはどれかというクイズを見たことがある。これは漢字の知識を必要とする問題だから、前掲の常識や先入観の話題とは少々異なると思われる。字形から判断して、東だけは木偏を書かないから、東が仲間外れと答える人もおり、意味から判断して、相と東は樹木の名称ではないから、相と東が仲間外れと答える人もいると思われる。

どの部首に属しているのか瞬時に理解できない漢字が無数にある。例えば東である。漢和辞典によれば、東は木偏の部首に載っている。東は木の中間部に日を書く。地平線から太陽が昇り、木と同じ高さに見える方角だから、「ひがし」であるという字源説がある。私はこの字源説



に少々疑問を抱いている。もしこの説が正しければ、夕刻になって太陽が地平線に近付き、木と同じ高さに見える方角つまり「にし」も同じ字で表現できるはずである。私は世間に流布して広く信じられている定説や学説でも、何だか少々変だなあと疑う癖がある。

手相や人相は人の手や顔を見て運命を占つ行為である。つまり「相」の基本的字義は「見る」という行為だから、木偏を書くが、実は目の部首に属しており、木の部首では見つからない。因みに「問」と「問」は門構えではなく、それぞれ耳と口の部首に分類されている。問は耳が、問は口が主役を演じるからである。また海、沼、池、湖、満などと同様に、酒もシ(さんずい)を書くが、実は酉(さけ)の「し」という部首に載っている。医の旧字体の「醫」も下に酉を書き、やはり酉の部首に載っている。酒と醫が同じ仲間である。部首の分類が見かけと一致しない漢字がいくつもある。

前掲のクイズの正解は「相」だけが目の部首に属しているから仲間外れである。私は東が木偏ということを知っていたので、理詰め推理で「相」が仲間外れだなと見当を付けた。

「相」だけが目の部首に属するから……という真の理由を知らなくても理詰めの論理思考で正解に辿りつけることも稀にはある。落下傘と飛行機のクイズと一脈相通じるものがある。但し漢字クイズを解くにはある程度の知識も必要である。六・父親が息子に「私は一万円持っている。もし私の考えていることを言い当てたら一万円与える」と言った。息子は父親の考えていることをぴたりと言い当てて一万円を手に入れた。では息子は父親になんと言ったのだらうか。

息子は「お父さんは私に一万円くれる意思がない」と言った。もし息子の発言が正しければ、父親は「約束」に従って息子に一万円与えなければならぬ。もし息子の発言が誤りならば、つまり「く

れる意思がない」が誤りならば、父親は「くれるつもり」でいたはずだから、「論理」に従って息子に一万円与えなければならぬ。父親に向かって「くれる意思はない」と言えば、息子は正解でも誤答でも確実に一万円を手に入れることができる。古代ギリシャから伝わる有名な詭弁である。

ついでに古代ギリシャの詭弁をも一つ。口をえ開けば必ず嘘をつく男がいた。その男が臨終の枕元で「私は生まれてから今日まで嘘ばかりついてきた」と言つて息を引き取った。この話におかしな点はないだらうか。喋れば必ず嘘をつく男だから、臨終の枕元でも例えは「私は一生嘘をついたことが一度もない」という嘘をつくべきである。臨終の言葉だけは例外という条件は書いてない。詭弁や逆説など、屁理屈をこねるようなクイズが意外に論理思考の訓練になると私は感じていた。

クイズを列挙しながら、常識的判断や

先人観や思い込みは思考停止状態、つまり大脳機能の退化である。論理想考の能力は訓練次第で向上する、つまり頭は使いつけていけば衰えない……という二つの結論を導いてみた。スポーツ生理学に筋肉は鍛えれば強くなる。使わなければ衰える。適度に使っていけば維持できる……という有名な定理がある。大脳機能にも同じ論理が当てはまると思われる。私はクイズ大好き人間で、暇さえあれば漢字や数学や論理学など、異なったタイプのクイズに挑戦しながら大脳に刺激を与えて楽しんでいる。

——こんにちは・ひとこと——

ほん だ えい すけ  
本 田 英 輔

書道は小学生以来で、老後の楽しみとして2年前に再開し、写真は医学部の学生時代に始めて、今はデジカメ専門で気ままに楽しんでいます。

(内科・神経内科)

## 寮歌 永遠の彼方に

小川 再 治

私が戦時中に在籍した旧制成城高校には、「えい州離歌」という我々を古代中国の仙人にたとえた寮歌があったが、我々は工場にばかり動員され、あまり歌う機会がないまま、殆んど忘れ去られてしまった。これは蜜力ラ派だった私に淋しいことだった。うさ晴らしに家では、父太郎の母校三高の「紅燃ゆる」と「琵琶湖周航歌」を口ずさんでいた。殊に後者には深い思い入れがあった。作者の小口太郎氏は父と名簿に名がつながらる同級生だった。小口氏は三十代で夭折したが、職業も父と近かったと聞いている。

私は父が亡くなった時、遺品を整理したが、父の三高時代の手帳を発見した。そして、そこには琵琶湖周航歌が記されていた。恐らくこの名歌は、当時から三高生に愛唱されていたのだろう。私は

益々旧高寮歌ファンになってしまった。

私は十数年前、喘息のため入院生活を送った。一日中点滴を受け、身動きが出来なかった。当時まだ行われていた寮歌祭のテープを聴いていた。ある日、水戸高校の寮歌を聴いたら、若い看護師さんが入室してきて、「何の歌ですか？」と聞くので、「寮歌です」と答えた。その時の彼女の私に対する質問は奇想天外のものであった。「それは魚を獲る漁の歌ですか？」と。「寮」と「漁」が同音なのが彼女を誤らせたのだが、勿論私は「寮歌」の概要を彼女に説明する破目になった。序で彼女に、「何故漁の歌と思ったのですか？」と尋ねたが、その回答がまたも、奇想天外なものだった。

水戸高の寮歌の一節に「筑波嶺おろしすさぶとも、いなさの風が寒くとも」とあるが、この一節を聴いた彼女は、「いなさの風が寒くとも頑張つて海に入り魚を捕まえる歌」と思ったのだ。

「私が好きな歌は貴方とは違いますから

ね」といつのが彼女の結論だった。「私が愛した寮歌はやがて消え失せるだろう」と秋風素漠たる気分になったのを思い出す。

## 道端の花たち

池田 壽雄

私は週に3度か4度散歩している。行く場所は自宅から2・8キロの場所にある、堺市菱木場橋ひじきばし(だから往復5・6キロとなる。2009年4月下旬に、ソニー製のデジタルカメラ(アルファ1350)を求めたが、いつもこれをショルダーバッグに入れて歩いている。バッグの中には接写レンズ(F2・8 MACRO 50)を交換用レンズとして入れてある。カメラには28ミリから200ミリのズームレンズが装着されているから、殆どの場合これで間に合う。『定点観測』という言葉があるが、私の散歩の場合には、散歩道は線状だから、定

点観測』となる。

歩道のそばには民家が並んでいるから、庭の草花が美しい。道路に沿って歌壇がある場所もある。4月から6月にかけては次々に花が咲いてくる。

花の種類は様々である。5月下旬にはエングエルトランベットが沢山咲く、黄色、ピンクなど大型の花が一斉に咲く。1ヶ月ほどたつと、2度目が咲き始める。ゼラニウムも赤やピンクが多い。バラも美しい。これも真っ赤や白、ピンク、黄色など色彩は豊かである。アヤメ、花シヨウブなど咲く期間は短いが目を楽しませてくれる。

5月下旬には、白いガクアジサイ(額紫陽花)が咲き始めていた。これが咲くと梅雨が間近なことを教えてくれる。

散歩のときに、アスファルトやコンクリートの隙間の僅かなスペースに紫色の小さなスミレが咲いているのに気づく。住みにくいこの世に辛抱して生きている点では、我々と似通っていると、つい同

情してしまう。人の世話になって歌壇で咲いているパンジー(三色スミレ)は形も大きいし、色彩も豊富であるが、これらよりも、私は道路のスミレの方が好きである。でも、1週間ほどで、道路のスミレは枯れてしまい、後には小さな実をつけている。必死に子孫を残しているのである。

道端には並木が並んでいる。春先には黄色っぽい若芽がついて、一斉に伸びていく。私は花と一緒に、これらの若芽も熱心に写真にとつておいた。

目線を上に挙げると、梅の花、松の芯などが目につく。5月中旬には、紫色の桐(キリ)の花が咲いていた。かなりの巨木であった。

和泉市太町(たいちょう)のHさんのガレージでは、真っ白な月下美人(ゲツカビジン)がある朝に咲いていた。5月下旬には、すぐ隣の鉢に紅孔雀(ベニクジャク)が派手な赤い花をつけていた。月下美人は私も鉢植えて咲かせた経験を

持っているが、夕方からゆっくりと花が開き始め、5、6時間でしおれてしまふ。朝には力なく、あるいはだらしない咲き終わっている。文字通りの一日花だから、初めてこの花が咲いた日には、嬉しくなつて友人に電話して、わざわざ拙宅に呼んで見てもらつたものであつた。

拙宅の4階の屋上で、鉢植えでバラを咲かせた経験も私は持っている。このバラは眺めるのは、実に美しい花であるが、いざ栽培するとなると、随分手間がかかる花である。1週間に1度は防虫剤を噴霧しないと、カナブンなどの害虫で葉や花が食べられてしまふ。また、殺菌剤もやはり1週間に1度は撒かないと、黒い斑点の病気になりやすい。咲き終われば、剪定もこまめにしなければならぬ。畑の地に直接植えると、水遣りなどは楽にはなるが、雑草を抜くときにトゲに刺されて痛い目にあつた。だから、除草には鉢植えの方が便利である。

バラやキクなどの高級な花は、趣味が

嵩した人になつていただいて咲いたときに花をプレゼントしていただく方を選ぶのが賢いと思つた。そうして、その花を写真に写して楽しむならば、手間が省けて宜しい。ちよつと図々しい考え方はあるが、我々の人生は短いから、有効に時間を使わねばならないと私は考えている。だから、道端に見かける花たちをデジタルカメラでパチパチと写すのは、その延長線上の考え方である。

## 親の介護と二種類の人間

星野達夫

当然のことであるが医師は患者を公平に扱わなければならない。しかし、40年近く内科医をやつてきた経験から言つて医師も人の子、どつしても先入観を持つて診てしまふ患者さんというものはいるものである。

私の外来患者Sさん、60歳前後の家庭の主婦、がそつだつた。以前宇都宮の病

院に勤務していたころの話である。

初対面は、職場健診を受けた彼女がわずかに正常上限を超えたある検査値を心配して受診した時である。病的な意味がほとんどない項目だつた。心配する必要はありませんよと時間をかけて説明すると、「心配なくてもいい異常値？ そんなものがあるの？ よく分からないことを言われてもこつちは困つちゃうよ」と一笑に付されてしまつた。敬語をまったく使わない物言ひも耳障りだが、それよりもこちらの一生懸命を馬鹿にされたようにでいやな感じだつた。

Sさんはその後時々私の外来を受診したが、やたらに注文が多い人だつた。来院するたびにテレビで、みの某が言つていたあの検査をしてみらいたい、友達に言われたこの薬がほしい、何々先生に紹介してほしいという。中には意味のない内容のものもある。そこまでする必要はないのではありませんかといつこちら意見は、いつもの口調で押し切られる。

要するに私の言つことなどほとんど聞いていないのである。診察するたびにいやな感じが残った。

患者さんだからいろいろ希望することは当然で一向に構わないのだが、こり押しをすればなんでも通る医者だと思われているようで面白くない。このひとは頑固で強引な人なのだ。そう思うと彼女の言動がいちいち神経に障った。来院の都度厄介な注文を持ち込む人、何でも思いの通りを通す人というイメージが出来上がり、診察室に呼び込む際には身構えるようになった。

そのSさんがあるとき疲労困憊した様子で外来に現れた。どうしたのですかと聞くと、親の介護で疲れ果てたといつてこんな話をしてくれた。

近くに85歳になる実母がひとり住んでいる。先日、この母が家で転倒して腰を強く打ちそのまま動けなくなつた。彼女はこれまで何度モ家で転んでいる。最初は3年前だつた。そのころから一人

でなんでもやれた母が次第に人の助けを借りなければならなくなつた。今では週に何回かヘルパーが来てくれている。

彼女には兄が二人いて、上の兄は彼女と同じ宇都宮市内に住み、一番目の兄は東京で家庭を持っている。母の家に急ぎながらSさんは、世話をするのは自分しかない、長兄夫婦は母のすぐ近くに住んでいるがあてにするまいと思つた。以前転倒した際に兄に電話をしたところ、不機嫌な声で「これからゴルフに行くところだ、今いかなければだめなのか？行つたとして、何をやれといふんだ」といわれたからである。

母は倒れた床の上に動けずいた。痛みがひどく一晩中同じ姿勢でいたのだといふ。ヘルパーの来ない日に転倒したのは運が悪かつた。高齢者は体の一箇所が痛むだけでたちまち体全体が不自由になるといふのが本当だ。

Sさんはまず、しびんを当てて排泄をさせ、汚れたままになつていた下着を換

えた。それから汗だくになつて床から抱き上げ椅子に座らせた。これだけで1時間以上かつた。額の汗を拭きながら彼女は、そつだ、母は飲まず食わずでいたのだ、何かつくらなければと思つた。いやそれよりも病院に連れて行くことを考えなければならぬ。やらなければならぬことが山のようにあることに気づきぼつ然とした。

いつも母が診てもらつている先生に電話をしてアポイントメントをとり、ようやく自分の車に乗せ病院に運んだ。病院玄関に着いたが自力では一歩も歩けない、車椅子を見つけて来て乗せて移動した。体が不自由になると日常のあらゆる動作がいかに困難になるかあらためてよくわかつた。自分が受診するときには考えてもみながつたことである。

診察をした医師はレントゲン撮影を指示した。検査室への移動がまた大変だつた。母を運びながら、先生はこの大変さを知っているのだろつかと思つた。

「骨折はしていません」レントゲンフィルムを見た医師はいった。大騒ぎの結末はあつけなかつた。痛み止めと湿布薬を処方され帰宅した。帰りは来るときの逆の順路をたどつたが同じように大変だつた。母を家のベッドに横たえて彼女は思った。これで一件落着ではないのだ。

これが大変なのだ。医師は、痛みがおさまり体が元のように動かせるまで数週間かかるといった。その間どうやって母の日常を維持するのか。ヘルパーに任

「こんにちは・ひつじ」

なかの かすよし  
中野一義

今回入会のお誘いをいただき誠に有難うございました。写真歴は長いのですが、超低空飛行を続けておりこれを機会に卓越した先輩達に、手解きをお願いしたいと思います。

(内科)

せきりというわけには行かない。しかし自分にも家庭がある。

途方にくれていると電話が鳴つた。長兄からだつた。彼は「病院に行つた」と聞いたけど……ああ、骨折でなかつたの、わかつた」といふとすぐ電話を切つた。

「くろつさま」でも「当然自分がやるところをやつてもらい本当にすまない」でもなかつた。「骨折してない」といふだけの結果を得るためにどれだけ大変な思いをしたか、兄はまるで分かつていないふつだつた。そもそも興味もないのだらうと彼女は思った。

「うん、よくある話だ、それにしてもSさんは大変だつたらう。疲労困憊するのは当然である。私はすっかり共感して言つた。」

「天は見ていますよ、そんな理不尽が通るわけがありません」

しかし彼女は言つた。

「わたし最近母を介護しながらときどき思つんだよ、いい加減にこの母から解放

されたいつて。(母が)死んだらこんなことを考えたことを後悔するのは分かつているんだけど……。子供は親の長生きを喜ばなければいけないのにこんなふう考えるなんて、私みたいなのはきつと天のバチが当たるよ」

天罰なんてとんでもない、私は心の中で叫んだ。彼女は親の介護を押し付けられてひとり苦労している善人なのだ。

私はふと思つた。人間は複雑なようだが、つまるところ世の中には2種類の人間しかいないのではないか。親の介護でも何でも、自分のすべきことを少しも心が痛まず他人に丸投げできる人と、それができない人と。丸投げされたほうはその身勝手さに憤慨するが結局は丸投げした人の言いなりになるものだ。一方、丸投げした方は丸投げされた方に感謝をすることはまずない、かえつて「ほんとうにお前は厄介な問題を持ち込んでくれるよ」と非難したりするものだ。職場でも家庭でも当てはまる例はいくらでもある。

私はなんだか人の世の仕組みがわかった  
ような気がした。

口のきき方は相変わらずだが、物語を  
聞くうちに私の抱いてきたSさんのイメ  
ージは一変した。これだけ親の介護に身  
を尽くしてそれでもなお自分を責める彼  
女は崇高でさえあった。一方、全てを妹  
にやらせてテンとして恥じない兄は人倫  
にもとる。天罰は彼女の兄にこそ下され  
るべきだ。Sさんは高血圧と糖尿病をか  
かえていて入院する可能性は大いにあっ  
た。もしもそうになったら自分は医師とし  
て出来ることをすべてやってあげようと  
心に決めた。天網恢恢、善い行いをした  
人は報われるべきだ、そう思ったからで  
ある。

## 私の山旅

田村 豊 幸

昭和十二年八月十一日、父の親友だっ  
た四人の大人に連れられて、母の実家が

あつた下妻中学一年生だった私は、栃木  
県の高原山へ登ったのが初めての山の旅  
だった。

それ以来、中学時代、毎年栃木県の山  
を友人や恩師や、ときには独りで歩いて  
いた。尾瀬の長蔵小屋もできたばかりの



頃か、日光湯元・西沢金山・日光沢・鬼  
怒沼・黒石山・赤安山・高石山・尾瀬沼  
口・三平峠を歩いたときは途中一人のも  
人に会わなかつたので、とても良かった。  
長蔵小屋でもらつた弁当の包み紙(写真  
真)は、私の心の中の軍旗のようなもの  
で、いまも部屋に飾つてある。

その頃の日記の字は、やはり少年のよ  
うで、写真より懐かしいし、勝手なこと  
をしゃべる元気もあつた。

昭和二十六年九月十四日、私と妻秀と義  
兄磯貝実さんの三人で、奥那須三斗小屋  
へ行ったときも楽しかつた。三斗小屋は  
米一俵を普通の四斗にすると、山が険し  
くて運べないから三斗にするといわれる  
ほどの急斜面の路だつたが、暗いランプ  
の下に、熊肉食べ放題といわれたが、暗  
くて肉の色はわからなかつた。

夜中には、なんの音かわからないが、  
しきりに遠くで音がしていたけれど、明  
け方の鳥の声は、忘れられない爽やかさ  
であつたことを、年中思い出せるのは有  
難いことで、五十年も夢のようである。

どんなものにも、そのものにはそのも  
のとしての価値がある。東照宮のお宮に  
はお宮としての、一本の杉の木には杉  
の木としての価値がある。お宮としての

価値からいえば杉の木の本ではわずかのものしか作れないから東照宮の方がすぐれているだろう。併し山の生きものとしては、雨風で破壊こわされるだけで一寸も伸びることのないお宮よりは冷たい雪や氷にもまけずに、その根で日光の山々をしつかり守っていてくれる細い杉の木の方がすぐれているにちがいない。

そのように、どんなものにはそのものとしての価値がある。そのことを考えると、誰にも何ともいわれないのに、ひとり黙って美しい山をいつまでも守っていてくれる一本の細い杉の木にも、たった一つの岩のかけらにも、それから杉の木のためものとしての雨や太陽にも人間は皆んなに頭を下げて、お礼を言わないわけにはゆかないような気がする。

お宮にはお宮としての、杉の木には杉の木としての価値がある。そのことを認めないで、日光には東照宮さえあれば……。などと考える人がもしあったとしたら、それは誤りというべきものであろ

う。地球上で人間が一番すぐれているなどと思うことも、自分の国が世界一よいなどと考えられることも、自分は誰よりもえらいなどと、胎の内で思い込むことも、皆んなひどい思い上がりというべきものであろう。

そのよつな思い上がりは決していつまでも続けるわけにはゆかなくなるにちがいない。そのよつなことは天が許さないことだ。どんなものにも、そのものとしての価値を認めなくてはならないと、少なくとも私はそう思う。

——こんにちは・ひとこと——

佐々木 正

レベルの高い先生方の集まりである本会にご紹介いただき、誠に光栄に存じます。小生昭和12年生、新宿区で整形外科開業27年です。諸先輩のご指導をお願い申し上げます。

(整形外科)

随想  
消夏  
2009年

## 波乗りの記

陶 易 王

夏が来れば思い出す。

昭和十年頃から十五年頃まで、私は逗子と藤沢で小学生時代を過ごした。

兄二人は名門湘南中学で、柔道や部活のスポーツを忙しくやっていた。

病弱だった私は身体を鍛える為、母に連れられて鶴沼海岸に毎日泳ぎにいった。

その頃はまた、サーフィン等と言う洒落た遊びは流行っていないかった。

私は、表面が磨り減って滑らかになつた古い洗濯板を抱えて、海岸に行く。

鶴沼は、江ノ島に比べて波が荒くて泳ぐ人はあまりいなかった。

母は砂浜に風呂敷を敷いて座り、日傘をさして私が泳ぐのを見守る。

私は、洗濯板を小脇に抱え、寄せて来る大波小波を掻き分けて沖に向かって泳ぐ。



深く背がたたなくなる所で向きを変え、適当な大波が来ると洗濯板を胸に抱え波の前に飛び込む。波は背中から肩に流れ、私を押し流して波打ち際までスラディングしてゆく。波に乗って三百メ



鵜沼海岸で昭和10年頃（右から）父陶晶孫、母みさを、長兄棟土、筆者、次兄坊資

ートル位はあつという間に流され、波打ち際に到着する。

これは美に気分がいい。岸に着いて、浅い所で胸が砂浜にぶつかると手を付いて立ち上がり、又沖へ向かつて泳ぐ。こ

れを何度も何度も繰り返し返す。

日傘の下で母は、にこにこしながら私の波乗りをずっと眺めていた。

ある時、大波が来て、ひく波と寄せる波がぶつかつて渦を巻き、その下に巻き

まれて海底に潜った。急に私の姿が見えなくなつて

母は驚き、立ち上がつて波打ち際

まで駆けてきた。私は水中で団子

虫みたいに手足を丸めて息を止

め、波に任せて流され砂浜に転が

るとすぐ起きあ

がった。それを見て母は安心し、砂浜に又座り直した。若しあれきり浮かんで来なかつたら飛び込んで助けようと思つたと母は言い、ワンピースの下に着ている水着を見せたので一寸、吃驚した。

「じゃあ、一緒に泳げばよかったのに」母は水泳が上手だった。

「波のある所は嫌いな、プールみたいな静かな水がいいの」と、母は笑つた。

風が強くなつて海は大荒れ、大波が寄せた。白い波が次々と崩れ、険しい様相を呈する。

危なくて泳げない。母は砂浜に座つて海の歌を沢山教えてくれた。

「海は坊やお友達……坊やの機嫌が良い時には……海も一日じゃぶじゃぶとぶさけてはかり……おりまする」

澄んだ母のアルトの声が砂浜に響いた。

一年後に母と別れ、上海で父と二人

暮らす事になるのだが、この時はつゆ知らず母と過ごした束の間の楽しく幸せな夏であつた。

因みに中国国歌を作曲した音楽家「聶耳氏」はこの鵜沼海岸で水泳中に溺れて亡くなつたさうである。

# ゴルフと湯河原の花火

2008年夏の遊び2題

浜名 新

2008年の8月は暑かった。

北京の国立競技場「鳥の巢」で「オリンピック」の祭典が開催され、アスリートの活躍が感動を与えてくれた。24日男子の「マラソンレース」2時間6分台の優勝者ケニアのワンジル選手、2位ガリブ選手、日本の尾方選手13位、完走した選手の中では最下位の佐藤選手。余力のある人、力尽きた人、夏の過酷なレースでした。日本育ちのワンジル選手はインタビューで、「我慢、我慢」と強調された。「ソフトボール」の上野選手は指の「まめ」をつぶしての念力投球。金メダルまで、あきらめない根性試合に感動。北島選手の平泳ぎ、柔道選手、レスリング選手たちの「金メダル」もお見事。「野球」では、「金メダル」に精神的に自縛され、

普段着の、のびのび野球が出来ず、タイムリーエラーもでて上位三國（韓国・キューバ・USA）に全敗。実力を発揮できず残念でした。しかし、野球とソフトで導入された、「延長戦」に入ると、「ノアウト、ランナー2塁」で試合が始まる意表をつかれた試合方法にびっくり。意外と斬新でよかったのではないですか？「金9個、銀6個、銅10個」頑張りました。

2008年の天候に關し、雷を伴ったリラ的な集中豪雨、局地的な、異常気象」が多い印象で、地球温暖化現象と無縁ではあるまい。先日、都内の下水道工事で、急に水量が倍以上になって襲いかかる鉄砲水に押し流され、下請け業者の作業員が亡くなる痛ましい事故が発生した。山川、海のレジャーでは、一層、自然の猛威を過小に評価してはならない。街での工事事故も多い。備えあれば憂い無し。だが、「通り魔」に遭っては防ぎようがないか？

夏休みを利用し、7月下旬に群馬県吾妻郡中之条町在の「美野原カントリークラブ（36ホール）」で、ロッジに宿泊2日間、ゴルフを楽しんだ。「ゴルフ宅急便」は生活になじんでいる。木曜日のフレイドに対し、火曜の早朝に「ファミマ」で手続き、エラーがでてやむを得ず断念。高をくった行動に大いに反省した。

木曜日朝早くゴルフバックを担ぎ、JRの西荻窪駅から神田駅経由上野駅へ。「特急草津一号」へ乗り込む。アナウンスあり「信号待ちでいま少しお待ちください」。ややあって、車両故障で運転取り止めとなりました。高崎方面へのお客さまは隣の各駅停車の高崎行の電車をご利用ください。特急券云々、察するに、過密ダイヤで、車両点検が間に合わないのかな？

出鼻をくじかれ、いまさら引き返すわけにもいかない。始発の高崎行の電車に乗り込んだ。高崎まで各駅停車だと2時間半くらいか？高崎駅に着く寸前信

号待ちで停車。「草津」行きの電車は隣のホーム、発車時間がものすごくタイト。バッグを拍ぎ、階段を上って下りて、ようやく前に間に合った。心臓バクバク、あせりました。

洪川駅を過ぎ、電車は吾妻川に沿って進む。「小野上」地区で「温泉」を掘り当て、小野上温泉が誕生してだいぶ経つ。まだ賑わいはみられない。中之条駅で降車。待合室がリニューアルされた。駅前広場の様子は以前と変わらない。クラブバスは廃止されタクシーを利用（2500円くらい）せざるを得ない。運転手とのやり取りである。

「《道産子ラーメン》の店は休みですか?」「旦那さんが急死して、閉鎖。今売りに出されているのです」「以前、何回か利用しましたが、急死とは不運でしたね」「不景気で、買い手が現れなくて」「なるほど。ここも過疎化が……」「そつなるかね」

中之条の町は多少緩やかな坂のある町

である。奥座敷には四方温泉郷が控えている。同級生のS先生はA中央病院を父親から引き継ぎ、発展させ頑張っている。市街地には草津へ抜ける国道が東西に走り、両脇に商店や人家が連なっている。ハイカーに人気の吾妻八景の随一の景観を誇る「高山(たけやま)」を左手にみて進む。右手に「認知症センター」の入所施設がある。「アルツハイマー病」、「ピック病」、あるいは「アルツハイマー型・脳血管障害認知症」で高次脳機能障害を伴い、「在宅療養」困難な人が対象なのかもしれない。

しばらく行くとイン10番ホール脇のエントランスから、右手に「もみの木コース」をみて、クラブハウスの玄関先へ。予約の10時半のスタートに多少遅れはしたが、受付でロッジ予約を確認し、ロッカーの鍵つきのスコアファイルを預かりロッカーで着替えた。キャデマスタ―室へ伝票を提出し、ゴルフバッグを常用力カートに積み込む。ペットボトル2本

用意。乗用力カートで「もみの木コース」へ。陽がさして暑い。

ストレッチ体操で、はやる気持ちと硬い体をほぐす。そして、ティーアップ。ドライバーを手にし、素振りをして、強振するとカッキーンと快音あり、白球はかなたへ? ゆるいうち下しのミドルホールである。カート専用道路でカートを運転して2打地点へ。クラブを2、3本持ってボールの地点へ。クラブを強振してグリーンオンを目指すが、それで、オンしない。カートを進め、3打地点へ、パターとアプローチ用のクラブを持って、グリーンオン。ピンを抜き、パターでカップイン。

何の変哲もない球うち。自宅を離れ、仕事を忘れ、他人に気兼ねしない一人ゴルフは、気楽でわがままゴルフ。あまり緊張感はない。ふと自分を見つめなおすときも、身体の緊急事態にならないことを祈るのみ。

アウトは「パー3」のショートホールが

2箇所、パー4のミドルホールが5箇所、パー5のロングホールが2箇所、合計9ホールでパー36、インも同様も「9ホール、パー36」。バックティーから6456ヤード、パー72。

ゴルフ競技では上手な人と対等にプレイできるよつにハンデキャップがある。私のハンデは21でパー72に21を加えた数93がパープレイ。大たたきのホールがあり、グロス1000を切れなくなつた。ハーフを終え冷房の効いたクラブハウスの内の食堂で「カレー・中生・キムチ」を注文。アルコールを控えたいが我慢できず、意思弱いなあ。「ゴルフ出来ることに乾杯」至福のときである。

インコースへ。天空の北側には黒雲がゴルフコースへ進行中。にわか雨が降りそそぐ。暑く、球筋が不安定でなかなか進行は平滑でなくなる。順次ホールをこなしていく。ホールを進むにつれ、黒雲が次第に近づいてくる。遠方では雨の様子が17番ホール辺りで雨が降り出してき

土砂降りにならず、18番ホールを何とかホールアウト。久々の遊びのゴルフだが、疲れた。風呂で汗を流してから、フロントで会計。ロッジまでカーとで送ってもらふ。

1人用の部屋はテレビ・ベッド・入浴設備、自販機は用意されていた。夕食はクラブハウスでのセットメニューの中華風弁当。意外にも仲間内の「コンペ」でしようか？ 15名くらいの泊り客の酒盛り談笑がみられた。

夏のゴルフは危険が一杯。電熱中症、心臓病発作、一過性脳虚血発作、転倒・捻挫などである。遊びで、不慮の事故に巻き込まれるのはばかげているし、避けねばならない。ひとりなので予兆があればすぐ切り上げねばならない。

翌日、「あららぎコース」のアウト1番朝7時半のトップのスタートにしてくれた。貸しきり気分で気分爽快。こちらのコースはタフで長い。バックティーだと7254ヤード、白マークからでも67

27ヤードあり。

アウト終了し、10時40分ごろ、キャデマスタア室へ伺つと、「スルーでどうですか？」「了解、インの10番ホールへ行くと、フォーサム（4人組み）が第2打地点でボール探しの様子？ しかし、その後の流れは平滑でした。18ホールプレイし何球かロストボール。久しぶりのなじみのコースで大満足でした。

駆け足のゴルフで疲れたが、クラブハウスの冷房に生き返る。昼飯は「スパゲッティ・中生・キムチ」。ウェイターと一言、三言。あがるうと、キャデマスタア室へ行くと、「もう半ラウンドとどうですか？」「混んでいるのでは？」「すこし待ちます」「午後からにわか雨の予報で、あがりませう。フェアウェイ、グリーンは満足しました」「ありがとございませう」風呂でさっぱりし、タクシーを呼ぶころ外は土砂降りとなつていた。

このゴルフ場は以前経営破たんして、現在、心機一転、再建中である。東京か

ら遠いのがネック。預託金は9割以上減  
資された。ロジックを活用し、宿泊キャン  
ペーン、オープンコンへの開催を行い、  
集客に努めている。コースは雄大、林間、  
丘陵風で、昭和48年開場で、樹木は育っ  
てきた。ゴルフ狂の方、プレイして損は  
ないでしょう。



8月第1日曜日は、湯河原温泉郷で「や  
つさ祭り」と「花火大会」がおこなわれ  
る。湯の里「杉菜」に一泊、翌日、早朝  
出勤の予定。今回は、朝、10時ごろ車で  
出発。東名高速から小田原厚木道路を経  
由して、小田原から海沿いの国道を走り、  
街道沿いの店で昼飯。そして真鶴半島に  
ある「ケープ真鶴」で休憩後、湯河原の  
「杉菜」への行程。

真鶴町手前の国道沿いに営業中の「あ  
じ大吉」で昼食。地魚を出す魚料理の店。  
駐車場に大きな「海がめ」が鎮座。相模  
の海は波頭なく、遠く南西方向に動物が  
ねそべっているかのよつな場所は真鶴半  
島の岬と三つ石。真鶴駅前から真鶴港に  
沿って進み、樹林の中を走るとまもなく  
「ケープ真鶴」に着く。「土産もの、レス  
トラン、休憩所」をかねた公立の施設。  
一休みして「岬」と「三つ石」を眺めよ  
うと南に進むと、幕末の「砲台跡」、「歌  
碑」があった。

海岸へ降りる道のすぐ左手に「展望画  
廊」をかねた喫茶室は、書道家の「望月  
秋羅」の店である。

歌碑には  
初日の出 なせ三つ石に 注連縄はらぬ  
坪内逍遙  
わが立てる 真鶴岬が二つにす 相模の海  
と伊豆の白波  
与謝野晶子

真鶴駅を左折し国道を西に行くと、平

坦な 吉浜海岸の砂浜が広がっている。  
「湯河原高校」の先から右折し、市街地  
から「千歳川」沿いにある「杉菜」へ到  
着。宿帳に記載する際、杉並区民の証明  
できるものを提示した。ここは、元杉並  
区の保養所で、経営上の関係で民間委託  
されている。温泉は、透明、ナトリウム  
―塩化物・硫酸塩泉の弱アルカリで万病  
に効くそうだ。

散策がてら、ペットボトル持参で、「杉  
菜」側にある千歳川溪谷のわき道を遡上  
した。溪谷の左側には滝や旅館が連なり、  
霏々風呂から若者たちのふざけた叫び声  
が響いていた。途中、「狸福(りふく)神  
社」が祀られ、湯河原温泉の発見に資し  
た「老狸」の物語が記述されていた。万  
葉公園の場所には「独歩の湯」の「本館  
の施設」と戸外に「足湯」の施設が10箇  
所くらい営業していた。なぜか、若者の  
カップルが多い。

宿のもてなし、「夕餉の膳」は、旅の一  
番の楽しみである。「中生とぬる燗」た

くさんの料理が酒の肴となつて胃袋へ。  
地魚の刺身からほおばる。小鍋料理は定  
番のよつた。

「海上花火大会 8月3日」には、今回

宿泊客を花火大会会場まで搬送してくれ  
るのでありがたい。7時半ころマイクロ  
パスで「湯河原文化会館」へ搬送してく  
れた。会館の屋上にすでに「ござ」がし  
かれていた。にわか店が飲料水を売つて  
いる。海風は頬を撫せ気分よい。目の前  
の吉浜海岸の海上に花火打ち上げ船はス  
タンバイしているに違いない。浴衣姿の  
宿泊客に混じり、地元のお若男女、若い  
カップルは今か今かと待っている。

日曜日の夜8時きつかり吉浜海岸の海  
上にある二隻の花火打ち上げ船から、  
用意「ドン」で大玉の打ち上げ花火の「花」  
が咲いた。夜空を華麗に彩る夏の風物詩  
は花火である。誰でもおらがむらの「花  
火大会」を自慢したくなる。

古里の浜名湖湖畔の「館山寺温泉花火  
大会」は7月第4土曜日・日曜日におこ

なわれ、ホテル・旅館業者には客を呼び  
込む夏の行事である。有名な花火大会の  
「観光ツアー」が組まれ、棧敷席での花  
火観賞である。

「魅せる花火」には発火音・開花音、夜  
空に浮かぶ多彩な色の花模様は美に鮮烈  
で、たちまち観衆は見とれ、同時に歓声  
が沸きあがる。吉浜海岸にはさきぎるも  
のとはなく音の響きは腹に響く。4000  
発だといふ。相違なコストにちがいない。  
協賛金のお願いのチラシがフロントに置  
かれてあった。1口1000円だった  
か？

「打ち上げ花火」は「色模様」と「音」  
がセットでないと、花火の値打ちは半減  
してしまふ。よくもまあ、花火職人はす  
ばらしい打ち上げ花火を作れるものか！  
感嘆せずにはいられない。まさに専門職  
人である。菊のように球形に開く「割物」、  
花火玉が上空まで2つに開き中から星など  
が放出する「ポカ物」がある。断面図を  
表現すると、外から、外殻（紙） 外側

に咲く星 割り火薬 中央に咲く星 割  
り火薬 導火線が中央部の割り火薬まで  
貫通している。

江戸時代の打ち上げ花火の操作は、コ  
ンピューター制御で電気着火するらしい。  
打ち上げ方には「单打」「連発」「早打」  
「対打」「重ね打」がある。今も、昔見た  
筒（鉄あるいはステンレス）の底に、打  
ち上げ用の発射火薬（黒色火薬）を入れ、  
花火の玉をいれ、「投げ込み」、「落とし火」、  
「ロビ」を入れ、発射火薬が発火、爆  
発して、花火球は上空へ打ち上げられ、  
導線に火がつき、次々着火、爆発して、  
きれいな色と模様を演出してくれる。

花火の号数と上がる高さ、開く大きさ  
は（ネット参照）\* 3号玉（直径8・5  
cm）、高さ200m、花の直径は60m。  
\* 10号玉（約29・5cm）、高さ330  
m、花の直径320m。\* 20号玉（58・  
5cm）、高さ500m、花480m。\*  
30号玉（88・5cm）、高さ600m、  
花550m。

「打ち上げ花火」には、職人の花火への情熱、打ち上げ師の息が合った連係プレイ、一瞬の色と模様、そして、開花の「ドン」という音、やはり身近にナマ（目と耳）で観賞したい。夏の夜の打ち上げ花火はいいものである。往々にして天候不良のときもあるが……。

花火は、昔、川開きを祝った行事の名残かもしれない。現在は忙しい庶民の憂さを晴らし、涼やかさを演出する真夏の風物詩として、村おこしの起爆剤として、連綿として続く「花火大会」であって欲しい。

## 羽田沖事故

A氏の悩み(2)

穂刈正臣

福岡東急ホテルの一室で、片桐機長の東京への明日の乗務をどうするか、彼が悩んでいたのはこうした一件があったからだ。

「今日の福岡便のよつな危険な運航態度では、機長としての職務の継続は無理ではないだろうか」

「今日のフライト状況を会社に報告すれば、彼は機長の資格を失い職務から外される」

「それは機長の生活権まで奪つことになりかねないし、そんな重大な結果を招く権限は航空機関士の自分には与えられていないのではないか」

「教官の肩書があつても、自分は航空機関士であり試験官ではないし、機長でもない」

「明日の乗務から片桐機長を降ろすと仮に自分が結論を出しても、午前七時福岡発の代替え機長は今からでは用意できない」

「フライトを止めるといふ重大な結論を自分一人の判断で出すなどすれば、お客様さんや会社に重大な迷惑をかけることになる」

彼の悩みは尽きず、しびしび出した結

論は「このまま片桐機長のフライトで羽田へ帰ろう」だった。

翌朝早くホテルを出た大型バスは、コクピットクルーの他にスチュワーデスも一緒に乗せ、賑やかに福岡空港に向かった。バスの中でも彼は羽田までのフライトが非常に気懸かりだった。そして、ただひたすらにフライトの無事を念じながら座席に沈んでいた。

DC-8は福岡空港の滑走路から定刻に飛び立った。片桐機長の後ろに座る彼は絶えず機長の動きを子細に監視していた。ところが、異常行動のあつた昨日とは違って変わり、反応が普段よりやや遅いという感じがするものの、「乗務員として不適合」と言つべき素振りには格別なよいつだった。片桐機長のこの様子なら、羽田までのフライトは無事終えられるだろうと嬉しく感じ、彼は安心した。

フライト時間は順調に過ぎていった。

やがて朝霧にけむる東京湾の奥に羽田空港が近づき、高度も徐々に下げて着陸態勢に入った。東京湾の海面のさざ波の輝きまでもはつきりと見えはじめた。その時である。操縦桿を握っていた片桐機長が突然、それを前に押し倒した。飛行機の先端部が海中につっこんだ。

「機長、なにをされるんですか」

そこには海面から生えているような鉄製の方向指示塔があった。物凄い音がした。

全身に痛みを覚え気を失った彼が気がついたのは、新宿の某病院のベットの中であった。

このあと二十年の歳月が流れた。彼は今なおあの悪夢のような出来事に、どうにも納得がゆかなかった。世間では、片桐機長に対する口頃の健康管理が責められ、ドクターの責任であるかのように言われているが、「あの事故の真の責任」は一体誰にあったのであろうか。

直接的な責任の一半は、福岡からのフライトを止められなかった自分にもあったのではないが。

その一方で彼の脳裏には、あの事件は、片桐機長の自殺行為そのものだった」という考えが生まれていた。

何故ならあの頃機長の夫婦仲は悪く今にも離婚しそうな状態にあったのだ。

それを裏付けるが如く、機長のフライトバックには自宅と土地の「登記簿」が入っ  
ていて持ち歩いていると言っ話してあ  
った

また、モスコ線のフライトチェックで片桐機長が「今日は調子が悪いから飛ばない」と言ったとき、その理由を深くも追求せずに見過して、機長職不的確を宣せず、単にチェック未了にしたチェッカーの責任はなかつたのだろうか。

片桐機長に関し、身体的、精神的に奇異と言っべき情報を多数耳しながら、一般的な仲間意識で庇ってきた先輩同僚の責任はなかつただろうか。

あの事故後に開かれた公聴会の前日、片桐機長の妻とその友人たちが、お花と菓子折りを持って、証言台に立つ自分の所を訪れた。これは彼らが、片桐機長の精神的な病状を以前から知っていたからではないか。とすると、病気なのを知りながら勤務に就かせた妻にも責任はなかつたのだろうか。

二十年が経つても、この一件に関するあれこれの思いに決着をつけられぬまま彼は逝ってしまった。

ところで、片桐機長の健康管理を担当していた日航運航乗員健康管理室のドクターに果たして責任があるのであろうか。世間では、いや日航社内さえ、運航乗員健康管理室のY医師の健康管理が悪いからこんな事故が起こつたと、彼の責任が云々され、悪者扱いにした。その結果、この一件の責任はY医師一人で被ることになってしまった。

しかし、企業のなかにあつて、あくま



でも会社側のいいなりならず、医師としての尊厳を持ちつつ、仕事を計画立案し、予算を計上し、一つの理念を貫いて社員の健康管理を行うのが、どれほど困難なことかは当事者でなければ判らない。

後口、他の医療機関により、片桐機長は「精神分裂病」と診断された。その結果何故こんな病人を飛ばせていたのか、理解に苦しむ、といったようなジャーナリストや世間の批判が噴き出した。

だが、乗員というものは一般のサラリーマンと異なり、会社にテラスクを持たず、社内では働かない。その上、会社に来るのは年数回の教育と年二回の健康診断の時しかない。この限られた時間内で果たして正しく的確に患者を発見できるであろうか。毎日の雑務にも追われる医師としては、相手の私生活にまで立ちいらねばならぬ精神面に問題のある患者の発見は極めて困難である。

夫してややく医師は精神科医ではなく、

内科医である。健康管理医の内科医が、ごく初期の精神科患者を見落としたというて攻められるであろうか。

医師が機長に「貴方は病气である」といつて乗務から降ろす結果を招くのは相手の職業を奪い、生活権を奪うことに他ならない。したがって機長の側としても、体調の悪い時は受診せずに、病気を隠そうとする。

こうした関係にある医師と機長との間に「信頼関係」が存在しうるのであろうか。

病床にある彼はまたこうも話した。「航空の安全は航空会社の絶対的「社会的責任」である。

そして、安全に旅客、貨物を運ぶという具体的「社会的責任」を担う運航乗務員の健康管理も彼等個人の問題にとどまらないのだ。また、運航乗員の家族にもこの点に留意して彼らの健康管理を行う必要があると話す。

「あの事故を詳細に分析することで運航乗員の健康管理についてや企業の責任について、もう一度、考える機会となればいいと思う、最後にこう言って、彼は話を締めくくったのだった。

彼は、あの事故で満身創痍となったが回復した。病院退院の時に記者会見をした。

新聞記者の「完全に回復したら飛行機に乗ってまた仕事をしたいですか」という質問に

「乗れるような体に戻ったり、もう一度乗りたい」と答えたと言った。

運航乗員は、あくまでも空を愛し、空を飛びたい人間の集まりである。しかし、みんなに愛され素朴に話した彼の姿をもつ見ることはない。天高く飛んで行ってしまったからである。